

# みどりのこえ

秋号  
2011

長野県環境保全研究所

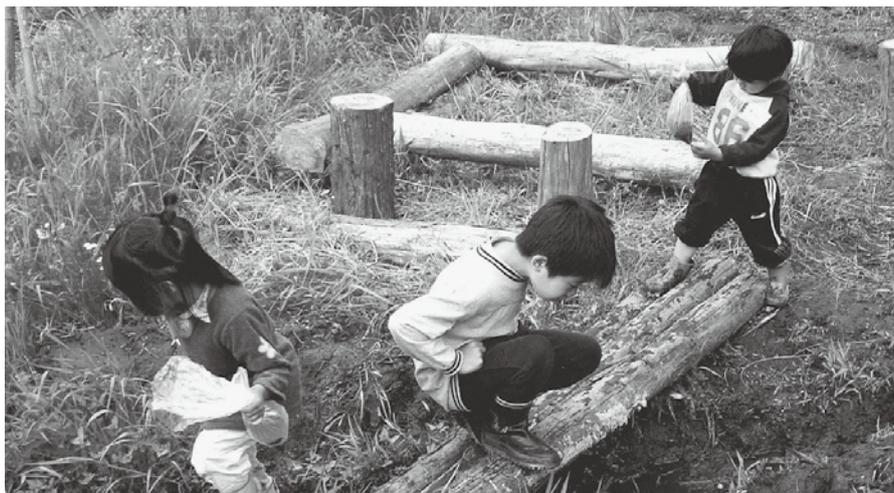
平成23年(2011年)11月30日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

●安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村 1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415

URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/xseikan/khozen/> E-mail: [kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp](mailto:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)

No.43



子どもの自然体験は、人としての感性を育む必要不可欠なプロセス

## 「里山の学校」と自然欠損障害

文・写真 中村 俊彦

里山里海の将来は、ややもすると農林漁業での経済的判断に終始する傾向がある。しかし、里山里海については、その水や大気等の環境面での豊かさ・安定性、さらに人々の精神・文化、誇りや生きる力に至る多様な価値の積算的評価をふまえた対応が求められる。

私たちが子どもの頃、里山里海の空間は、遊びとともに学びの空間であった。しかし、今の子どもたちからその環境は後退し、さらに電子媒体の仮想世界が自然や生命とのかかわりを激減させている。

2005年に「Last Child in the Woods」を著したアメリカ人リチャード・ループは、現代の子どもたちに急増する注意欠損・多動性障害等の精神や身体の問題は、自然欠損による障害(nature deficit disorder)と述べている。私も、自然体験と子どもの成長との関係については、タンポポ世代、ダンゴムシ世代、ザリガニ世代、カブトムシ世代の認識とともに大脳発達の仕組みや感性との関係に言及してきた。

そのようななか最近公開されたドキュメンタリー映画

「里山の学校」はあらためて子どもの里山体験の重要性を語ってくれている。原村政樹監督、桜映画社制作のこの映画の舞台は、私も知る木更津市での子どもたちのさまざまな里山体験と子ども同士のかかわり合いの記録である。里山の田畑や森林で、さまざまな年齢の子どもたちが泥だらけになって多様な体験をする。時には大げんかをするが、また仲直りして互いに工夫し助け合い、多くの体感を通じて感動し成長していくさまは、かつてはあたりまえだった子ども世界の姿でもある。

その映画の中の、普段、大人が見ることのできない子どもたちの世界の記録を通じて私が学んだことは、大人社会以上に充実し信頼性ある子ども社会の実態であった。一見、無謀な子どもの振る舞いも、それが人としての学びのプロセスであり、大人の中途半端な介入が子どもにどれほど人としての成長を阻害しているかを思い知らされた。

(なかむら としひこ / 千葉県生物多様性センター副技監 併任・千葉県立中央博物館副館長)

### Contents

【巻頭言】「里山の学校」と自然欠損障害	1	【自然ふれあい講座実施報告】	8-9
【特集】環境保全に取り組む市民大集合 2011		【フィールドノートから】『信州大自然紀行』が進行中	10
飯綱庁舎 秋の大にぎわい!!	2	【新スタッフから】	11
市民団体へのアンケート結果	3	【こんな本みつけた!】『雑草とあそぼう』『木の本』	11
活動事例紹介	4-5	ご案内 公開セミナーの予定ほか	12
【飯綱庁舎 夏の施設公開 2011 開催報告】	6-7		